

# 間借り蔵しのカンパニー

## 背景

### 【商店街現地調査によって分かった課題】

- ・ 商店街の空き店舗が4分の1を占めており、商店街というものが成り立っていない。(表1)

→ その空き店舗の中でも貸店舗はほとんどない。

### 【データによって分かった課題】

- ・ 平成27年に行った「魅力あるまちなかの商店街を目指すためのアンケート」によると、商店街へ買い物に来る頻度として、月1、2回以下の方は、まったく来ない人も含めると全体の6割にもなる。(表2)

(注) ここでいう商店街とは福井県越前市の中央広小路商店街と総社通り商店街を指す。

「魅力あるまちなかの商店街を目指すためのアンケート」  
(2015年まちなか商店街)より

(表1)

まちなか商店街	総軒数 A	営業中 B	状況 C (格別商業者)	貸店舗 D	住宅 E	その他 F	駐車場 G	60歳以上 H	後継なし I
総社通り	58	35	22	3	17	3	1	16	12
中央広小路通り	73	50	21	8	8	7	7	17	13
広小路通り	16	9	7		5	2	2	3	3
蓬萊本町通り	35	15	11	2	10	8	3	7	7
善光寺通り	39	21	16	4	9	5	2	8	4
計	221	130	77	17	49	25	15	51	39

営業中の地元商業者割合	59.2% C/B
地元商業者の後継者なし	50.6% H/C
総軒数に占める営業店舗	59.8% B/A
空き店舗率	24.4% D+F/B+D+F

空き店舗率 24.4%

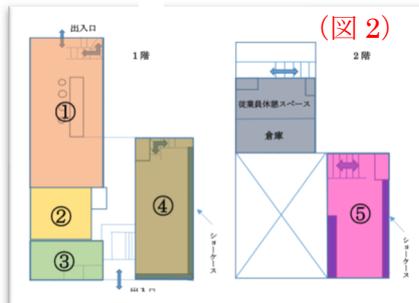
(表2)

問1-1 来る頻度は？							未回答	計
ほぼ毎日	週2.3回	週1回	月1.2回	それ以下	計			
130	60	128	216	307	28	869		
15%	7%	15%	25%	35%	3%			

全体の6割

## 概要

- ・ 商店街の空き店舗を利用して間借りによる商業施設を作る。
- ・ 間借りには、「時間の間借り」と「空間の間借り」の2種類がある。カフェスペースは時間の間借りを採用し、その他スペースは空間の間借りとして使用する。(図1)
- ・ 1つの建物に4つの店舗を間借りして、かかった費用を分割しながら経営する。例として、間借りして入る店舗はカフェ①、ワークショップエリア③、雑貨屋④、セレクトショップ⑤、夜に営業するバー①である。カフェの横に共有スペース②を設置しており、そのスペースはカフェのオーナーが管理とする。ワークショップエリアはレンタル制で、その日によって行われるイベントが変化する。カフェとバーはお昼の時間と夜からの時間と、時間を分けて営業する。(図2)



## 実現までの流れ

- ・ 組織の募集で作られたまちづくり団体は、蔵の辻を拠点にまちづくりに力を入れて活動する。(図3)
- (例) 空き店舗の管理・運営を行う。
- そこで必要となる資金を越前市の助成制度を利用して賄う。

## アピールポイント

- ・ 商店街に地域住民が交流できる場を作る。
- ・ 空き店舗の有効活用。
- ・ 店舗を間借りすることによって、お金、空間、場所を効率的にシェアできる。
- ・ 越前市助成金制度を利用することで、新たにお店を開こうとしている人でも負担なく始められる。

仁愛大学早川ゼミ チーム「眠らない街 TAKEFU」